

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することにより利用者様の生きる力を引き出し、心身の活性化に繋がれること。そして、利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を送ることができるように援助します。終末期は家族と一緒に過ごせるように配慮し、安らかな死を家族様に見守られながら迎えられるように職員一同尊敬と誠意をもって援助させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは近くに緑の山が見え、周辺には田畑が広がり、穏やかな環境にある。地域に根付いた運営により、地元の利用者が多く、本人も家族も安心して過ごすことができる。隣接するホームの農園で、季節ごとの野菜や果物を育て、それを利用しながら、職員が毎日栄養ある暖かい食事を作り提供している。職員は、看護師資格を持つ管理者の下で、本人・家族の思いを受け止めながら、最後までその人らしく穏やかに過ごせるよう、看取りケアに取り組んでいる。管理者は、職員が安心して支援を行えるよう、研修受講を奨励し、休暇取得にも配慮しながら、職員が働きやすい職場環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に、自然豊かな地域の中で利用者様のありのままの姿を受け止め、喜びや生きがいを感じることで、日々の暮らしの中で振り返りながら支援している。	利用者の思いを決して否定せず、理念でもある「ありのまま」の姿を受け止め、一対一で関わっていく支援を心がけている。また、利用者が穏やかに生活できるよう常に寄り添い、職員間で理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地元暮らし、地域の防災訓練や清掃活動に参加し、地域の「いきいきサロン」の運営もしている。また地区の文化祭に作品を出したり、施設の夏祭りでは地域の方を招いて交流している。	利用者は、元々、地元の人が多く、安心して暮らしている。中学生のボランティアが来訪し、ミニコンサートを開催している。ホームの農園では、職員と利用者が一緒に栽培や収穫を行っている。畑作業や散歩の際には、近所の人とあいさつを交わすなど、地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の福祉の相談を受けたり、地域活動では認知症の予防やリハビリ体操などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況やホームでの様子、行事等をお知らせしている。皆様から率直な意見を伺い、それを職員全体で共有しより良いサービスが提供できるように日々努力している。	運営推進会議は、行政、地域関係者、家族等の参加を得て、隔月に開催している。防災訓練や夏祭り、芋煮会等の行事と組み合わせ、参加しやすいよう工夫している。運営状況や利用者の生活、行事の反省等を報告し、話し合いながらサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で市の担当者に助言や指導を頂きながら協力関係を築けるように取り組んでいる。	日頃から、困難事例や分からない事など、すぐに担当者に聞き、助言や指導を仰ぎ連携を深めている。実際に、事業所付近にゴミを捨てられたり、台風で同法人事業所が停電になるなど、対応策を相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努め、拘束の弊害についての研修を定期的に行うことで理解している。利用者の状態に応じた福祉用具を活用し見守りながら安全に配慮した支援を行っている。	身体拘束委員会を立ち上げ、3か月に一度、研修会を実施している。2ユニットの全職員が参加できるように、2日間に分けて研修を行い、身体拘束廃止や指針について再確認するなど、事業所全体で身体拘束をしない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、入浴時の身体状況や小さな怪我などを見過ごすことなく、職員間の情報交換等により早期発見と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて成年後見制度を学んでいる。利用されている方もあり、ご家族様から相談されることもあるので、資料等を参考にアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者や家族様の不安や疑問に丁寧にお答えし、書面をもって説明している。またホーム内の生活の様子や職員の態度等を実際に見ていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様が不安や疑問に感じていないかに配慮しながら、家族様の訪問時には利用者の日常生活を伝え、家族様の希望を聞くなど気軽に話ができる関係作りに努めている。また、玄関には意見箱の設置や第三者機関の苦情窓口を提示している。	運営推進会議の案内の裏に、意見や要望を記載できるスペースを作っている。また、普段から、家族の来訪時にも、意見や要望を聞いている。LINEが出来る家族には、利用者の写真や事業所での様子を送るなど、話しやすい関係作りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、普段から現場に入っており職員の意見や要望を受け止め運営に反映している。また、本人本位のケア方法を実践できるよう取り組んでいる。	日常的に、管理者も現場に入っており、職員から意見や要望を聞いている。個人的な意見については、別室で話を聞くなど配慮し、より近くで業務に就いているリーダーに伝え、問題解決に繋がるよう環境を整えている。	管理者と職員が、利用者の情報を共有し支援を行っている。今後も、職員が利用者と家族に寄り添いながら、じっくりと支援ができるよう、事業所全体での支援体制に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員が向上心を持ち互いに協力しながら働けるように努めている。また、職員のワークライフバランスに配慮し、メンタルサポートにも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に職務の担当があり、責任ややりがいに繋げている。また、資格取得や研修等は個人の経験や能力に応じ参加している。そのための休暇や費用は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を介して知り合った他施設の方の見学や意見交流ができるように便宜を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や入居に至るまでの環境並びに経過を知ることから始め、本人や家族様の不安や要望に耳を傾け、寄り添いながら安心してその人らしい暮らしができるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族様の思いを受け止め、不安や要望など気兼ねなく話していただけるような雰囲気作りに努めている。また、家族間での思いの違いにも着目し、それぞれに合った対応をし信頼関係を築いている。入所初期には利用者様の様子を電話等で伝え安心して頂いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の実情や要望を見極め他のサービス利用も視野に入れ、必要とする支援を安心・納得した上で可能な限り希望に沿った支援ができるように心掛けています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のありのままの姿を受け止め、喜びや生きがいを感じることでできるよう、「介護する・される」という関係ではなく、共に過ごし学び、支えあう関係を築き一緒に生活をしている家族として安心した生活を送ることができるよう心掛けています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を一番に支えるのは家族様であるという考えのもとに、家族様の考えを受け止め、本人と家族様との関係を深めるように支援し、共にご本人を支えていけるよう協力しあえる関係を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた身内や友人との関係が疎遠にならないように、訪問者が気兼ねなく面会に来られるよう雰囲気作りに努めている。時候ごとの葉書を出したりと関係継続を図っている。また、家族の受け入れが可能であれば外出の援助を行っている。		利用者の地元の友人が気軽に立ち寄っている。また、月2回、音楽ボランティアが訪れ、ホームの向かいにある同法人小規模多機能型サービスの利用者と一緒に、歌や会話を楽しんでいる。家族と美容室に出かけたり、携帯電話で会話する利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を配慮した席の位置や活動の参加の仕方を考慮しつつ、利用者の性格や行動を把握することにより、孤独やトラブルを防ぎ、利用者同士が助け合い穏やかに関りが持てるよに見守り支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時候の挨拶の葉書を送る等、関係性を継続している。また、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や人生経験を知り会話・表情などから思いや希望を理解できるように努めている。困難な場合は、思いに近づけるように日々話し合い、利用者が安心して過ごせるよう模索している。また家族の協力を得て把握するよう努めている。	本人の望みや意向の把握に努めている。習字や絵を描く等のレクリエーションを行い、本人の趣味を継続して行えるよう支援している。意向把握が困難な場合は、その人らしく穏やかに暮らせるよう、さりげなく寄り添い、職員間で支援方法について話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作成することにより、今までの暮らしを理解し、その人らしい毎日が過ごせるように常に寄り添いながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に介護記録を作成し、健康状態や行動記録を記載している。また、「利用者の出来ること・できなくなってきたこと」を把握できるように意識し、職員が共有することによって適切な支援を提供することができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれの担当利用者の状況や課題点をまとめサービス担当者会議及びケースカンファレンスで持ち寄り職員全員で検討し共有している。また、家族様の意見を取り入れ介護計画に反映させている。	介護計画は、全職員で検討し作成している。家族に利用者の現状を伝えて意見や要望を聞き、理学療法士の意見を参考に、サービス担当者会議で話し合いながら、それらを計画に反映させている。必要に応じて柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づきを個別記録に記載し、ケアの実践や本人の様子の変化を職員で共有し、見直しや評価に活用している。また、職員間の申し送りを確実にを行うため、申し送り表を作成し介護士・看護師が情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の状況やその時のニーズに合わせて臨機応変にサービス提供に取り組んでいる。また、重度化や終末期・看取りを医療との連携において実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方々の協力のもと、一人一人が社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向に沿って個別に選択して頂いている。医療機関の受診の際には看護師が同伴し、家族と一緒に説明を受け医療情報を共有している。また、緊急時には、職員が柔軟に対応している。	協力医が毎日訪れ、利用者を1名ずつ診ている。往診には、管理者が医師に利用者の状態を説明し、医師からの指示で、必要であれば家族に報告し情報を共有している。協力医による24時間365日の医療支援は、利用者と家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており介護職員と情報を共有し、利用者様の健康状態を常時観察し状態変化に迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には看護師が必ず付き添い情報提供をしている。入院中も現在の病状を病院スタッフに聞きながら病院主治医・看護師・ソーシャルワーカー・かかりつけの医師らと連携して早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての指針を説明し同意を得るようにしている。本人や家族様の意思を重視し状態の変化に応じ、医師や関係者と話し合い最後までその人らしく穏やかに過ごせるように支援するように心掛けている。医師・看護師・介護職員が24時間体制で連携し、家族様の協力を得て看取りケアに取り組んでいる。	終末期については、利用者と家族の思いを尊重し、話し合いを重ねながら、最期は家族に囲まれて穏やかに過ごせるよう支援している。職員はカンファレンス時に看取りについて学びを重ねながら、全員がチームとなり、より良い支援が行なえるよう取り組んでいる。家族が居室で宿泊できるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動が出来るように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は運営推進会議時に行っており自治会長様や家族様も参加している。器具の取り扱い、関係機関への通報・誘導、また、安否確認の方法を家族様に伝え、協力医や協力薬局と連携し災害時に混乱しないように整えている。備蓄も完備している。	災害時において、利用者の「避難完了」を色別で確認できるように札を下げ、誰でも利用者の避難状況が分かるようにしている。職員手作りの防災ズキンを被って、訓練を実施している。避難訓練後には、総合評価を行い、振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や価値観を尊重しながら、ありのままの人柄を受け入れ、思いやりのある接し方に心掛けている。利用者の着替えや排泄支援には、自尊心を傷つけないよう配慮し対応をしている。	職員は、共同トイレでの排泄介助は、声の大きさやトーン、隣同士に入って介助しないなど、プライバシーに配慮している。利用者への声かけは、基本的に利用者の苗字で呼んでいるが、本人の馴染みある呼び方で呼ぶ場合もあり、常に利用者の気持ちを尊重した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、十分に意思表示ができない利用者様であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチし本人の意図していることを理解できるように努めている。常に主体性を持つことができるように簡単な選択肢を持って話しをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を尊重し、その人らしい生活が継続できるように可能な限り柔軟な対応を心掛け一人一人の生活リズムに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みを尊重し、季節にあったおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや嚥下状態を把握し、個々に合った食形態で提供している。また畑で収穫した野菜を使い、季節感や行事のわかる献立にしたり、職員も同じテーブルで同じものを食べ会話を楽しみながら食事ができている。利用者様には料理の下準備から片付けなど出来ることをして頂いている。	毎日、職員手作りの食事を提供している。誕生日にはリクエスト食を作り、ホットケーキやおはぎなどのおやつ作りも利用者の楽しみとなっている。干し柿の皮むきや、切り干し大根用の大根を切ったり、職員と一緒に楽しみながら、それぞれができる事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足にならないように普段から個々の好みや食事の様子を観察し、体調や体重の増減を測り記録し、個々に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔衛生の仕上げを介助している。また、歯科衛生士による歯科メンテナンスも必要な方に行っており、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の身体状況や排泄パターンを把握し個々に合った排泄方法やオムツ等を選択し、必要な補助具や介助を見極めて支援している。	個々の排泄パターンを把握し、日中の声掛けや、夜間のポータブルトイレの使用など、利用者の負担がかからないよう配慮し、排泄の自立支援を行っている。外出した日は、普段と違った生活リズムとなる事を理解し、夜間は利用者の状態を見ながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や形態・量を確認し記録している。また、排泄パターンを把握し、適度な運動や水分補給、便秘予防の食品等を摂取するなどして自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっているが健康状態等や汚染時に柔軟に対応を行っている。また、一人一人の入浴習慣や好みに合わせ安楽な入浴ができるよう支援している。リフト浴も備えている。	入浴前に看護師がバイタルチェックを行い、利用者の体調に合わせて支援をしている。職員2人体制での入浴が基本である。リフト浴を設置しており、初めてリフト浴を使用する利用者の場合は、職員が体を密着させ、不安を与えないよう配慮し、安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムやその時々状況に応じ睡眠環境を整えて、安心して眠ることができるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を理解し、個別にセットしてある。薬の誤薬や飲み忘れを防ぐために、その都度、名前や日にちを確認し必ず服薬確認をしている。また、状態変化にも十分留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、食器を拭くなどその人の能力に合わせ、できることを見守りながら行っている。その人に合った役割を持つことで、生きがいを持って暮らせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の公園を散歩したり、近くの神社にお参りに行ったりして季節感を感じるようにしている。また、テラスや庭に出ておやつを食べたり日光浴をしている。家族様の協力で散歩に出かけたり、食事や買い物に出かけられることもある。	利用者の体調を考慮しながら、天気の良い日は毎日散歩へ出かけている。弁当持参で花見に出かけたり、ホームの「小町農園」へ行き、野菜の栽培や収穫など、外出気分を楽しめるよう支援している。また、病院の帰りに喫茶店へ行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故管理されている方もいる。お金の執着される方には、家族様の協力のもと少額をもってしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる方もみえるし、希望があれば固定電話からかけたり取り次いだりしている。時候の葉書などを支援しながら書いていただき送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の理念である、五感を刺激し、個々の感覚や価値観を大切にしながら心安らぐような空間が保てるように配慮している。みんなで作成して季節感あふれる作品を飾っている。	リビングは、食事場所と別になっており、明るく落ち着いた雰囲気である。ゆったりとしたソファがあり、利用者は、新聞を読んだり、家から本を持ってきてもらって読むなど、好きな場所で自由に過ごしている。感染予防のため、普段から窓を開け閉めして空気を入れ替えるなど、居心地の良い環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格により気に入った場所があり、お互いにストレスを感じることがないように配慮し、それぞれが気に入った場所や気の合った仲間同士くつろげる場所を作り思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋がわかりやすいように工夫し、今まで使い慣れた家具や寝具等を持って頂きそれを使用している。本人が安心して暮らせるように。家族の写真、思い出の作品、好みの花を飾ったりして、本人や家族様の自由に工夫して頂いている。	居室には、家族の写真や作品などを飾り、家具やベッドの配置も自由である。好きな花に囲まれて過ごす利用者や、テレビを置いて楽しむ利用者など、思い思いに暮らしている。利用者に状態によっては、本人の身の安全を守る為、センサーで確認し、支援している利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を生かし、一人一人に合った支援を持続して行えるようにしている。家庭的で温かい雰囲気を大切にしながら安全安楽に暮らせるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町(小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和元年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に、自然豊かな住み慣れた地域の中で利用者様のありのままの姿を受け止め、日々の暮らしの中で喜びや生きがいを感じられるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は、地元暮らし、地域の行事や掃除活動防災訓練に積極的に参加し、文化祭には、利用者の方の作品を出展している。ホームの夏祭りには、地域住民を招待し子供さん達と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの福祉相談を受けたり、地域活動では、認知症の予防やリハビリ体操など行っている。「諏訪いきいきサロン」の参加と指導をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、事業所の取り組みや利用者状況や生活ぶりを報告している。それらの報告から出た課題点について、職員全員が共有しより良いサービスが提供できるよう支援している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、地域高齢者の実態や困難事例、法改正について、相談し助言をいただいている。ケア会議や研修会に積極的に参加し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害について、定期的に研修を行い職員は理解している。また、身体拘束廃止委員会に加え職員間でも話し合い、個々の状態に合わせたケアを工夫し身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者指導もと、「高齢者虐待防止法」について研修を行い入浴時の身体状況、小さなきずなど虐待が見過ごすことのないよう注意している。また、職員間の情報交換等により早期発見と防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修を行い制度について理解している。当施設でも利用されている方あります。また、相談されることもあり資料等参考に助言し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者、家族様と面談して疑問に丁寧にお答えし書面をもって説明、理解を得ている。また、施設内の見学をして生活の様子や職員の態度など実際に観て頂き納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、「花咲小町たより」を送付し日々の暮らしをお知らせしている。面会時には、家族に近況報告をしたり、要望など無いかこちら側から話し掛け雑談をしたりして話しやすい雰囲気を作り引き出しそれらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々、職員と共に現場に入っており職員の意見や要望をすぐに聞くことの出来る状況にあり、備品の不具合や、利用者についての課題、職員の気付きなど、その都度受け止め運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員が向上心を持ち、お互いに教え合い協力しながら働ける環境を作っている。また、勤務についても、個々の希望を重視し家庭と両立出来るよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修は、個人の経験や能力に応じ参加し職員同士研鑽を積みながらトレーニングしている。研修を受ける機会の確保や勤務調整を行い支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議などで知り合った他施設職員と意見交流を行い、その際、知り得た情報を施設に持ち帰りサービスの質を向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境を作り本人が歩んできた人生や入居に至るまでの環境や経歴に耳を傾け会話の中で気持ちを受け止め寄り添いながら安心して、その人らしい暮らしが送られるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の心配や不安をお尋ねするとともに、施設での新しい生活の中で、家族様と一緒に支えていけるように話し合い、信頼関係をきづくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見守りの中で、本人の状態を確認し、本人家族の要望を取り入れた、「今必要な支援」を見極める。他の、サービスに付いても助言アドバイスを行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者は、「介護する、される」という関係ではなく、共に生活している家族として、喜怒哀楽を共通し、学び合い、励まし合って支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が一番に支えているのは、家族様であり職員は、その絆を大切により深めるよう支援している。面会時、職員は、近況報告をお話ししたり、お尋ねしたりしてお互いの状況を知ることによって支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力で、馴染みの美容院に行かれたり食事に行かれる方もあります。以前のご近所の方や友人の面会も気軽に来ていただけるよう配慮している。また、ボランティア、エレクtoon時、系列施設内で集まった際に以前一緒に利用されていた方同士楽しそうに会話されることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動を見守りの中で把握し、孤立やトラブルを、防ぎ利用者同士が助け合い励まし合い穏やかに暮らしていけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、町で会ったら挨拶を交わし立ち話をし近況をお訊ねしたり、施設で使えないかと服や野菜類を持ってきていただいたりしてよい関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得て入居以前の生活歴の情報に参考に会話や行動から利用者の思いを受け止めるよう努めている。困難な場合は、職員間で検討し、本人にとってよい方法を見いだすよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史の作成により、入所以前の暮らしの理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、その人の有する力を日々の生活の見守りの中で把握し現状を保ち日々遅れるよう声かけし支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、利用者の状況や情報、課題点を職員で話し合いまとめ介護計画を作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行いそこから出てきた課題についても、計画に反映させ支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、介護記録を作成している。それによって健康状態や行動、日常生活の様子を、把握し情報を職員で共有して計画に反映させ適切な支援を提供出来るよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状態や、その時々ニーズに合わせて柔軟な、サービス提供に取り組んでいる。また、重度化や、看取りを医療機関と連携して行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や、ボランティア活動の皆さんにより、社会の一員として豊かな暮らしを送り、また、楽しみをもって暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居以前からのかかりつけ医としています。医療機関受診時は、看護師が同行し状態説明をして適切な治療が行えるように援助をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、介護職員と連体して情報共有している。利用者の健康状態を把握し状態の急変に迅速に対応している。また、介護職員と一緒に日々の勤務をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、必ず看護師が付き添い、情報提供を行っている。入院中は、家族や病院職員、主治医、かかりつけ医、ソーシャルワーカーらと連帯して早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意思を確認し、希望に添ったケアが出来るよう、状態の変化に応じ医師や関係者、家族が話し合い、最後までその人らしく穏やかに過ごせるよう、医師、看護師、介護職員が24時間連帯し、終末期ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」作成されている。緊急時に適切な行動が出来るよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、運営推進会議の際に、いろいろな状況を想定し訓練を行っている。自治会長様や家族様も参加いただいている。安否確認方法や協力医、薬局との連絡方法なども災害時混乱しないよう訓練している。飲料水、食料の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、「ありのまま」を受け入れ、人格を尊重した声掛けや接し方に気をつけ対応する事を大切にしている。利用者の着替えや排泄支援の際などは、自尊心を傷つけることのないよう環境に配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、共に生活して行くなかで、利用者が、希望や思いを表に出し職員と話し合える関係作りを心がけ支援している。利用者が、自己にて決定できるような、話し掛けや、アドバイスをを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、生活習慣や、その日、その時の状態を把握し、その方のペースで行動できるよう対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合ったこだわりを尊重し季節に合ったおしゃれを楽しんでいる。毎朝、モーニングケアの際、鏡に向かい職員と一緒に身だしなみを整えている。出張の美容院の手配など行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量を観ながら、準備や細かいことを声かけ行ってもらい、その方々の役割を持ってもらう。季節の旬の物を取り入れたり、希望を尋ねメニューに入れる。その日のメニューをお知らせしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事、摂取量や一人ひとりのそのときの、身体状態に応じた形態を工夫して提供している。水分補給についても、その方の、状態に応じ工夫し声掛けしながら支援している。特に脱水に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の殺菌により、誤嚥性肺炎になる場合もあり、自己にて出来ない方は、職員がその方に適した方法で行い、自己にて出来る方は、声かけ毎食後、行っている。、必要に応じ歯科衛生士によるメンテナンスを受けている方もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行うことにより、利用者一人ひとりの身体状態や排泄パターンを把握し、個々に合った対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の、排便の有無、形態や量を確認し記録しチェックしている。排便パターンを把握し、適度の運動、水分摂取、食事など自然排泄を促すよう工夫支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	リフトが導入されていて利用者の状況に合わせてシャワー浴とリフト浴で入浴支援を行っている。入浴の順番や湯温など利用者の希望に沿った支援を行っている。健康状態などに配慮し柔軟に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ、安心して気持ちよく休むことが出来るよう、清潔で季節を考えた環境に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の情報を理解し個別にセットがしてある。服薬時は、誤薬が無いよう日付や名前を何度も確認し、飲み忘れがないかチェックしている。身体状態によりとろみをつけたり飲み方も工夫し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食前の準備、洗濯物たたみ、食材の細々した準備など、その方の力量に合った役割を行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良いときは、散歩に出かけるよう日課としている。お花見や喫茶店などに出かけることが有る。また、家族様のご協力で買い物や、食事などに出かけられる方もあります。そういった外出時の連絡や外出準備など支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされている方もある。お金の執着される方は、ご家族と話し合い少額をもっていただければご協力いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、制限なく要望があれば、自由にやり取り出来る。また、ご家族様と話し合い携帯電話を使用されている方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、清潔で、安全にして暮らして行けよう心がけている。空調や日当たりなども調整を行い心地よく安心して過ごしていただいている。緑を多く配置したり、皆さんで作った作品なども展示し楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの気に入った場所があり、お互いに認識しているため、気に入った者同士会話したりテレビを観たりして皆さん思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご協力をいただき、今まで使い慣れた物や寝具を持っていただき自分らしい居室作りをし安心して過ごせるよう支援している。。また、入り口には、表札と自分の部屋がわかるよう個々に違った小物を、工夫し配置して混乱しないよう支援している。清潔保持にも配慮し支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせ、それぞれの「出来ること」を見極め、楽しく持続して続けられるような声掛けを行い支援している。		